

令和 3 年度 県立石岡第一高等学校自己評価表（定時制）

目指す学校像	(1) 創立 110 年を超える歴史と伝統を受け継ぎ、各学科の特色を生かし、地域の中核として信頼され期待される学校となる。 (2) 生徒一人一人が個性を伸ばし、将来の夢を実現するための知識・技能を身に付け、自信と誇りを持てる学校となる。 (3) あらゆる教育活動の場面で、一人一人が輝く活力ある学校となる。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成状況
学習活動は、個々の生徒の実態に応じた教材を利用することで、基礎学力の向上を図ることができた。学校行事等への参加を促し、個性の伸長を図り、教師と生徒相互の好ましい人間関係を築くことができた。また、集会等に落ち着いた態度で参加し、講師や先生方の話を真剣に聞くことができた。 基礎学力の定着とより一層の向上、基本的な生活習慣の育成、望ましい食習慣を定着が継続的な課題である。	基礎学力の向上	①授業時間の確保に努める。 ②生徒の実態に応じた教材を利用し、学習・課題プリントの利用により「分かる授業の実施」に努め、学習意欲を高めさせる。		A
	進路意識の確立	③進路に関する情報収集や適切な進路選択ができる能力を育てる。 ④3 卒に向けた進路相談及び学習支援により進路意識を醸成する。		A
	基本的な生活習慣の育成	④欠席や遅刻を減らし、仕事と学習の両立を促す。 ⑤家庭や社会との連携を図り、社会規範を遵守する態度を育てる。		A
	特別活動の充実	⑥学校行事や生徒会行事へ積極的に参加させ、それらの活動を通して仲間意識や信頼関係を構築させる。 ⑦継続的な就業体験での学びから、将来の生き方を考えさせる。		A
	保健厚生の充実	⑧心身の健康増進、自己管理能力の向上を図るため、教育相談体制を充実させる。 ⑨給食を通して、望ましい食習慣やマナーを習得させるとともに、感染症対策など衛生管理面の意識を育てる。		A
	職員の服務規律の遵守と働き方改革の推進	⑩日頃のコミュニケーションを通して教職員の良好な関係を作り、学校諸課題に「チーム」として対応する組織づくりを推進する。 ⑪コンプライアンス意識をもって行動する。		A
三つの方針	具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	○「なりたい自分」を見つけ、その実現のために努力する力を育成します。 ○「学び直し」に力を入れ、基礎学力の定着をはかり、社会で生きる力を養います。 ○多様性を認め、他者と協調・協働して行動する力を養います。	A	A 丁寧でわかりやすい授業を実践するために、ICT 機器を積極的に活用する。 欠席日数が多い生徒が少なくないので、サポート体制を構築したい。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	○少人数クラスにより、丁寧でわかりやすい授業を展開し、基礎基本の定着をはかります。 ○学年を越えた学校全体での諸行事を通して、他者と協働して物事に取り組むことによって、コミュニケーション能力や社会性を育みます。 ○学校生活での不安を抱える生徒に対し、丁寧な支援・相談を行うとともに、さまざまな機関とも連携してサポートしていきます。 ○学校生活やアルバイトを通して、他者から学び自分を見つめることを大切にしていきます。	B	

【別紙３】

	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○働きながら高校へ通い、卒業を目指して頑張れる生徒。 ○基礎から学び直したい生徒。 ○学校行事など集団生活を通して、様々な体験をしたい生徒。 ○社会と学校のルールやマナーを守って、落ち着いた高校生活を送りたい生徒。	A		入学希望者や中学校関係者 に対し、学校が期待する生 徒像を周知する。
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の向上を図る	漢字の読みの確認、語句の意味調べを繰り返し学ぶことで基礎学力を定着させる。	A	A	「書くこと・話すこと」を通 じた言語能力の育成を充実 させる。
		自主作成の教材を用意して学習の手立て及び目標を明確にすることにより、学習意欲を喚起させる。	A		
	社会人として必要とされる言語能力を育てる	一般常識やものの見方、考え方についての文章を読んだり聞いたりして、自己の考えを発表や書くなどの活動を通して、自分の言葉でコメントする言語能力の育成をする。	B		
地歴 公民	基礎学力の向上を図る	教科書等の図表、データを活用したプリント教材を作成し、基礎・基本事項を理解させる。	B	B	I C T機器を活用し、わかる 授業を実践する。
	適切かつ公正な判断力や能力・態度を育成する	生活に密着した身近な教材（視聴覚教材や新聞を含む）を活用し、多様な角度から現代社会の課題や歴史問題を考察させる。	B		
数学	基礎学力の向上を図る	プリント学習により、基礎的演算力を身に付けさせる。	A	A	教材・課題をより一層工夫し てやる気を起こさせる。
	考えを表現できるようにする	日常生活や社会の事象との関連を意識させることにより、数学の有用性が実感できる教材・課題の工夫をする。	A		
理科	基礎学力の向上を図る	プリント学習や画像観察により科学の基本事項を理解させる。	A	A	さらに実験や観察を充実さ せて、探求活動を推進する。
	自然の物事・現象について理解を深め、科学的な自然観を育成する	身近な話題や事象を多く取り上げ、人間生活が自然現象に与える影響を理解させて、考えさせる。 観察・実験の充実及び探求活動（課題の把握、課題の探求、課題の解決）を推進する。	A		
保体	健康意識の定着を目指す	健康に対する意識を高め、新しい情報を入手し、自己管理能力を育てる。	A	A	体育授業で各学年の実態に 応じた種目や場面の設定を 工夫する。
	基礎体力の向上を目指す	得意な種目を通して、自発的に自らの体力を向上させる。	A		
芸術	芸術を愛好する心情を育てる	幅広い活動を通して様々な事を体験し、主体的に関わっていけるようにする。	A	A	教材の工夫により、さらに技 能面における自信をつけさ せ、芸術への意欲を高める。
	芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う	技能的な面の伸長を図るとともに、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ表現させる。	A		
外国語	授業の充実を目指す	プリント教材を使用し、個々の生徒にきめ細かい指導を進める。	A	A	生徒の学習意欲を促進する 言語活動を多く展開する。
	コミュニケーション能力を育成する	聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの四技能を総合的・有機的に関連させた指導を充実させるために、歌、ニュースなどの素材もとり入れる。	A		
家庭	授業の充実を目指す	生活に関する基礎知識・技術が身に付くようにする。	A	A	作品作りから生活に必要な 知識・技術を身につけさせ る。
	生活を科学的に探求する方法 や課題解決能力を育成する	生活理論とともに、実験・実習を重視した技術力向上の工夫をする。	A		

【別紙 3】

教務	教員間の連携を深め、生徒全員の進級・卒業を目指す	組織的な学習指導体制を確立するとともに、登校状況や授業の出席状況を常に把握して、家庭との連携を密にする。	A	A	活発にコミュニケーションがとれる雰囲気職場を目指す。
	生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成する	教育課程の編成に当たっては、基礎・基本的学力が定着するように配慮する。	B		
生徒指導	問題行動等の未然防止に努める	連休前・長期休業前の指導、薬物乱用防止・交通安全指導等を通して、自他の生命の尊重、規範意識や公共マナーの向上を図る。	A	A	コロナ渦での生活においても、欠席、遅刻、早退を減らせるようにサポートする。
	生徒理解を深める	HRや個別面談等を通して一人一人に対応した生徒理解に努め、指導援助を充実させる。	A		
進路指導	希望進路の実現を支援する	総合の時間やHRを活用し、自己の将来像を具現化する手立てを学ばせ、職業への適性を考える機会を設ける。	A	A	全日制の進路指導部と連携し、就職情報の収集をする。ハローワークや企業と連携を取り、定時生への求人票を増やす。
		全日制の進路指導部との連携を密にし、求人票などの進路情報の有効利用を進める。	A		
	生徒の個々に応じた進路指導を推進する	個別面談や保護者面談等を通して徒理解に努め、一人一人に対応した進路を主体的に選択する能力や態度を育成する。	A		
特別活動	生徒会活動の活性化を図る	生徒の実態にあった行事内容を立案し、活動機会を設ける。	B	A	感染症拡大防止での活動制限が多い中で、生徒会活動等の工夫や充実を図る。
	学校行事や生徒会行事を充実させる	学年の枠を超えた活動を通して、仲間意識や信頼関係を構築させる。	A		
	キャリアパスポートを活用して様々な学びを自己のキャリア形成に生ず態度を育てる。	生徒の成長を促す対話的な支援により、自らの学習状況やキャリア形成を見通した評価を適切に行わせる。	B		
保健厚生	心身の健康増進、自己管理能力の向上を図る	定期的な保健便りの発行で健康に関する情報を提供し、生徒の健康意識を高める。また、スクールカウンセラーと連携し、一人一人に対応した教育相談を進める。	A	A	限られた予算で栄養バランスを考慮したメニューにしたい。
	望ましい食習慣を定着させる	食事前の手洗い・消毒等衛生管理意識、余裕のある食事時間、偏食の是正等を指導する。また、給食便りでの情報提供や給食講話を実施し、食育の充実を図る。	A		
渉外	教育内容の広報に努める	保護者に生徒の学校生活状況を伝え、家庭との連携を密にする。	C	C	広報活動の充実を図る。
第1学年	基本的生活習慣を育成する	欠席・遅刻・早退を減らす。	A	A	生徒たちは規律ある学校生活を送るよう指導していく。
	基礎学力を定着させる	日々の目標を設定し、学習活動に着実に取り組ませる。	A		
第2学年	基本的生活習慣を育成し、3学年への進級を目指す	欠席・遅刻・早退を減らす。	C	B	3修3卒を目指す生徒を含め、卒業後の進路を意識した生活をさせる。
		面談等を通し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。	B		
	基礎学力を向上させる	3修3卒を目指す生徒への定通併修及び高校卒業程度認定試験受験のサポートを行う。	A		
第3学年	基本的生活習慣を確立する	欠席・遅刻の多い生徒に適宜面談を実施するとともに、保護者への連絡を密にする。	C	B	個々の希望に沿った進路の実現を目指す。
	基礎学力を向上させる	3修3卒を目指す生徒への定通併修及び高校卒業程度認定試験受験のサポートを行う。	B		
第4学年	進路指導を充実・強化する	個に応じた進路指導を推進し、定職を目指した学習や生活の指導の充実を図る。	A	A	進路の決定を2・3学年から保護者と連携する。
	基本的生活習慣を確立する	欠席・遅刻の減少を目指し、社会規範を遵守する態度を育てる。	A		

※ 評価規準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

